

特別助成 東日本大震災の被災者を元気づける事業

「若者による被災者・被災地支援活動」事業

被災地で困難な状況に置かれている人々を 引きこもりや無業の若者が支援し自立を目指す

不登校、引きこもり、ニートなど、社会参加に関する様々な問題を抱える若者がいる一方で、震災後、被災地では仮設・復興住宅で引きこもりや独居の高齢者が増えている。その二者を結ぶことで、寄り添い、支え合う関係を構築したいと活動を続ける「みやこ自立サポートセンター」。短時間では解決できない課題に地道に取り組んでいる。



「さをり発表・体験交流会」とこれを告知するチラシ。物品の搬入・設営、会場整理など引きこもりや若年無業者などが従事

被災者支援が手薄になりつつあるなかで 若者のマンパワーを生かした支援を模索

1987年に岩手県宮古市で不登校の子どもやその保護者の相談活動を行う「宮古地区不登校を考える父母会」として発足し、さらに引きこもりや若年無業者の相談や自立支援にも活動の幅を広げてきた「NPO法人みやこ自立サポートセンター(2007年の法人化とともに現団体名に改称)」。現在は、宮古地区(宮古市・山田町・岩泉町・田野畑村)を活動エリアに、概ね15歳から40歳未満の不登校・引きこもり・若年無業者本人やその家族を対象に、相談活動やカウンセリング事業、自立・社会復帰支援事業などに取り組んでいる。

「東日本大震災から6年が経過し、被災地や被災者に対する支援が手薄になりつつあります。これまでの仮設暮らしから復興住宅や新しい住居への移住が進むなかで、移住先での人間関係の構築や地域コミュニティの復興・

再生・活性化が新たな問題となっています。そうした事態に対し、若年無業者や引きこもり、大震災で職を失った若者など、被災地で不利な状況に置かれている若者のマンパワーを活用し、復興支援につなげられないかと考えました」そう話すのは、同法人の事務局長、中村信之さん。そこで、みやこ自立サポートセンターではAJOSCからの助成を受けて、若者による被災者・被災地支援活動を開始した。活動に参加したのは、センターの支援を受けている主に30代の若年無業者や引きこもりなどの10数名である。「被災弱者の方々にとっては、同じように社会的弱者である引きこもりなどの若者のほうが、支え合う、寄り添うという関係を構築しやすい。活動に参加した若者にとっては就労体験になるし、外に出ていくきっかけにもなる。また、その活動に対して謝金を支払っているため、それをもらうことで社会参加しているという実感や喜びが持てます」と、中村さん。

さをり織りの発表・体験交流会のサポートや 孤立する復興住宅入居者のニーズ調査

今回の事業の中心は、さをり織り体験会及び教室、その発表交流会である。さをり織りとは、手織機による織物で手本もなければ、こう織るといふ決まりもない。すべてが自己表現であり、自分の思い通りに織ればよいというのがコンセプトである。同法人では、大震災後にさをり織りのデモンストレーションを見たことをきっかけに技術を学び、仮設住宅や復興住宅に暮らす被災者の支援活動の一環として取り組んできた。

月1回、集会所などで教室を開いてきたが、その集大成として、2017年2月26日に宮古市で、作品の展示発表、自由鑑賞、体験コーナーなどを内容とする「さをり発表・体験交流会」を実施した。事業に参加した若者たちは、ここで手織機の搬入・設営、会場整理、指導の手伝いなどに

従事した。

また、同法人では復興住宅に入居している人を主な対象にして、今、どんなことに困っているのか、どんな支援を要望しているのかを把握するためのアンケートや聞き取り調査も始めている。こうした調査に若者も随行し、被災者の声に耳を傾けている。「復興住宅に入居したことで、かえって孤立化が深まり、他人に対する警戒心が強くなっている、なかなか一筋縄ではいきません。要望を出してもらうために、茶話会やカラオケ会などの催事を通じて徐々に溶け込もうとしている段階。地道に活動を継続するしかありません」と、中村さんは話す。

こうした活動を通じて若者たちにも行動力が身につく、現実に就労に結び付いたケースもあるという。被災者支援と若者の自立支援を結びつけるという発想の事業は、これからも続く。



さをり織り作業の様子



復興住宅に暮らす被災者の孤立化を防ぐため茶話会も開催

助成団体: 特定非営利活動法人 みやこ自立サポートセンター <http://miyakojsc.webcrow.jp>



地域連携によって社会的弱者を支える体制を作りたい

スタッフの固定化・高齢化、各種の助成金の打ち切りという状況のなか、活動資金の不足が大きな課題です。その意味でも、今回の助成は大変助かりました。今後は行政、社協、関係機関などと地域連携的な取り組みをして、不登校や引きこもりに対する社会の無理解や自己責任というプレッシャーを少しでも変えていきたいと考えています。

NPO法人 みやこ自立サポートセンター
事務局長 中村信之さん